

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		2・東書	第1・2・3学年	歴史・002-72	新編 新しい社会 歴史
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物や文化財、出来事に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、元号、時代区分を示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、福岡や福井の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、テーマや問いを設定した調査・考察から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、奈良時代の律令国家の成立に着目して、貴族と庶民の生活に相違が出た理由を考察したり、単元のまとめでは「古代の日本ではどのように国家が形成されたか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、鎌倉時代の武士の政権の特色に着目して、貴族の邸宅と武士の館を比較し違いを考察したり、単元のまとめでは「武士の支配が広がり社会はどのように変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸幕府の支配の仕組みに着目して、地図で大名の配置を読み取り、その理由を考察したり、単元のまとめでは「近世の日本では社会にどのような変化が見られたか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、明治政府の諸改革の目的に着目して、アイヌの人々と琉球の人々への対応の共通点を考察したり、単元のまとめでは「近代化で日本はどのように変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、戦後の政治の展開と国民生活の変化に着目して、日本復興を象徴する出来事を考察したり、単元のまとめでは「戦後の日本は何をきっかけに成長したのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、近世の社会の様子学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、屏風絵等の複数の資料を比較し、時代の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内容の 構成・ 排列、 分量等		○ 内容の構成・排列については、「歴史へのとびら」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は30ページ、「近世までの日本とアジア」は118ページ、「近現代の日本と世界」は126ページ、その他は26ページであり、総ページ数は300ページで、前回より約3%減となっている。			
使用上の 配慮等		○ 江戸時代の最上徳内、近藤重蔵、間宮林蔵らの北方探検の地図を掲載して、その行程を紹介したり（全学年）、「アイヌ文化とその継承」として、儀式や生活の様子などの資料を掲載して、アイヌ文化の成立と展開、アイヌ文化継承の動きを説明したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「チェック＆トライ」で一単位時間の学習の最後に振り返る活動（全学年）や、「みんなでチャレンジ」で他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整する活動（全学年）を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。			

	○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり（全学年），全ての生徒が学習しやすいよう，ユニバーサルデザインフォントを使用したり（全学年）するとともに，1人1台端末を活用した学習活動として，二次元コードを掲載する（全学年）など，使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については，中世の学習におけるアイヌ民族の交易活動，江戸時代の学習におけるアイヌ民族と松前藩の交易，旭川にゆかりのある知里幸恵や「アイヌ神謡集」が扱われている。また，北方領土について，明治時代の領土画定をめぐる問題の背景や日本人が生活していた頃の様子が扱われている。 ○ ICTの活用については，関連資料や動画などのデジタルコンテンツが設定されており，技能の向上を図るための参考動画を視聴できるほか，歴史的資料を拡大して閲覧できるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については，各章の導入の活動に，小学校で学習した人物や文化財の資料，用語を掲載してマーク等で示し，併せて小学校の学習内容を中心に構成した年表を記載する工夫がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう，小集団での参加型学習「みんなでチャレンジ」を設定し，多様な意見に触れながら，自分の考えを調整したり，まとめたりできるよう工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて，複数の資料の中から適切な資料を選択したり，資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう，「スキルアップ」のコーナーを設定し，資料を集める，読み取る，まとめる等の技能を定着できるようにするなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し，概念などに関する知識として獲得することができるよう，章の学習内容の振り返りに向け，章末に「まとめの活動」のコーナーや，一単位時間の学習内容の整理とまとめを行うよう，各見開きに「チェック」のコーナーを設定する工夫がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・017-72	中学 社会 歴史 未来をひらく
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した人物や文化財、できごとなどに着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、元号、時代区分を示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、鎌倉や名古屋の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査方法や発表方法を示した地域調査の手引きから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、奈良時代の律令国家の成立に着目して、律令制のもとでの暮らしを考察したり、単元のまとめでは「国はどのように生まれたのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、室町時代の文化の変化に着目して、社会の変化との結び付きを考察したり、単元のまとめでは「武士と民衆の成長によって、社会はどのように変化したのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸時代の国際関係に着目して、鎖国のもとでの世界との結び付きを考察したり、単元のまとめでは「近世の日本はどのような政治のしくみをつくったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、明治政府の政策に着目して、アイヌ民族や琉球の人たちへの影響を考察したり、単元のまとめでは「近代の日本では政治・社会・文化はどのように変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、国際社会での我が国の役割に着目して、平和な世界を築く取組を考察したり、単元のまとめでは「戦後、日本は世界とどう関わり、社会をどう変化させたか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、中世の日本と世界の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、絵巻物を中心に複数の資料を比較し、人々の生活の様子について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内容の 構成・ 排列、 分量等		○ 内容の構成・排列については、「歴史のとらえ方・調べ方」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は35ページ、「近世までの日本とアジア」は115ページ、「近現代の日本と世界」は140ページ、その他は27ページであり、総ページ数317ページで、前回より約1%減となっている。			
使用上の 配慮等		○ 江戸時代に函館に来航したペリー艦隊の航路や函館にある来航記念碑の資料を掲載して、函館寄港の際のエピソードを紹介したり(全学年)、アイヌの人たちの言葉や文化について、知里幸恵やアイヌ神謡集の資料を掲載して、現在までアイヌ文化を伝えてきた人々の努力を説明したり(全学年)するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「確認」で一単位時間の学習内容を振り返って整理する活動(全学年)や、「表現」で学習内容を図に表したり、自分の言葉で説明したりする活動(全学年)を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり(全学年)、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするとともに、1人1台端			

	末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載する(全学年)など、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、室町時代におけるオホーツク文化や、明治時代における知里幸恵とアイヌ神謡集などが扱われている。また、北方領土について、明治時代の学習の本文や特設ページ「隣国と向き合うために」において日本の領土をめぐる課題が扱われている。 ○ ICTの活用については、二次元コードから、縄文遺跡群世界遺産事務局などの各種リンクやクイズなどにアクセスして学習に使用することができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、巻頭に「歴史ゲームで遊ぼう」、「歴史にアプローチ」を設定し、小学校での学習を楽しみながら振り返ったり、中学校での学習で働かせる「歴史の見方・考え方」や学習の進め方について学んだりすることができるよう工夫がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、特設ページ「歴史を探ろう」では、本時に登場しない人物の視点や、後の時代への影響やつながりなどの視点から生徒が捉えなおすことができるよう工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて、複数の資料の中から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう、単元を通して追究する問いを生み出す視点を提示し、追究に必要な資料を掲載するとともに、その活用の手がかりについても提示する工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「確認」のコーナー等や、章末に学習内容を振り返り、段階的に考察し、表現する「Hop!」「STEP!」「JUMP!」を設定する工夫がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		46・帝国	第1・2・3学年	歴史・046-72	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 歴史的分野の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、元号、時代区分を示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、博多や横浜の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、テーマや課題を設定した調査から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、古墳時代の日本列島における国家形成に着目して、前方後円墳の役割を考察したり、単元のまとめでは「古代の社会にはどのような特色があったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、鎌倉時代の武家政権の成立に着目して、貴族と比較して武士の暮らしの特徴を考察したり、単元のまとめでは「武士による政治で社会がどのように変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸時代の人々の考えや幕府の方針に着目して、江戸時代の政治や社会の特色を考察したり、単元のまとめでは「全国を統一する政権の誕生で社会がどう変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、明治維新と近代国家の形成に着目して、明治政府の国づくりの進め方を考察したり、単元のまとめでは「近代国家の建設を目指し社会はどう変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、日本の経済の発展に着目して、高度経済成長、東京オリンピックの意義を考察したり、単元のまとめでは「戦後の日本の社会はどのように変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、江戸時代の町人文化の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、イラスト等の複数の資料を基に江戸の人々の暮らしについて話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内容の 構成・ 排列、 分量等		○ 内容の構成・排列については、「歴史のとらえ方と調べ方」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は13ページ、「近世までの日本とアジア」は146ページ、「近現代の日本と世界」は146ページ、その他は29ページであり、総ページ数は334ページで、前回より約7%増となっている。			
使用上の 配慮等		○ 屯田兵による開拓や開拓使による札幌の建設、官営工場の設置などの北海道の開拓使を紹介したり（全学年）、「アイヌ民族の暮らし」として、儀式や生活の様子、言葉などの資料を掲載して、アイヌ民族の生活の様子や交易を説明したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「説明しよう」で説明する活動を通して学習を振り返る活動（全学年）や、「アクティブ歴史」で自分の意見をまとめたり、他者と意見を交換したりする活動（全学年）を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書を活用した学び方について説明するページを設けたり（全学年）、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したり（全学年）する			

	とともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、アイヌ民族の歴史や知里幸恵、アイヌ神謡集等について掲載している。また、北方領土について、特設ページ「歴史を探ろう」において、日本の領土画定と領有をめぐる諸課題が扱われている。 ○ ICTの活用については、二次元コードで学習内容に関連する動画や、「学習を振り返ろう」において「学習事項の確認」の解答などが閲覧でき、学習内容を確実に理解することができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、各章の冒頭の「章扉」に「小学校で学んだ人物と主な出来事」の年表が設置され、小学校で学んだ人物と出来事を確認することで、これからの学習とのつながりを意識しやすくする工夫がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、各章末の特設ページにおいて、戦後の日本と他国との関係など各時代の特色やその背景について考察を深めるパフォーマンス課題を設定する工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて、複数の資料の中から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう、資料を比較して時代の特色を捉える「タイムトラベル」や、都市のイラストや世界地図から日本の歴史とのつながりを考える「世界とのつながりを考えよう」などを設定する工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、一単位時間の学習内容を見通す学習課題や知識と理解を深める問いである「確認しよう」「説明しよう」を設定するなど、見開きページを構造化した紙面構成とするとともに、章末に「学習を振り返ろう」を設定し、章の問いをまとめることで時代の特色を捉えることができるよう配慮がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		81・山川	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・081-72	中学歴史 日本と世界 改訂版
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 歴史的分野の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史を大きく変えた人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、考古学や政治、社会、年号による時代区分についてのまとめや年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、平泉や金沢の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査方法やレポートの作成方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、平安時代の東アジアとの交流に着目して、文化の国風化を考察したり、単元のまとめでは「平安時代になると、社会はどのように変化したのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、室町時代の武家政治の展開に着目して、幕府の仕組みや守護の役割の変化を考察したり、単元のまとめでは「宗教の果たした役割を考えてみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸時代の対外関係に着目して、経済的な発展や文化の形成を考察したり、単元のまとめでは「社会や経済の変化に対して、幕府はどのように対応したのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、明治政府の外交の展開に着目して、国際関係の変化を考察したり、単元のまとめでは「明治政府はどのような近代国家をつくろうとしていたのだろうか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、日本国憲法と日本の民主化に着目して、国際関係の変化と日本の外交を考察したり、単元のまとめでは「冷戦下の世界で起こった戦争の特徴は何だろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、日露戦争と東アジアの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、風刺画や地図などの様々な資料を基に日露戦争が与えた影響について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内容の 構成・ 排列、 分量等		○ 内容の構成・排列については、「歴史との対話」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」22 ページ、「近世までの日本とアジア」は 132 ページ、「近現代の日本と世界」は 125 ページ、その他は 17 ページであり、総ページ数は 296 ページで、前回とほぼ同様となっている。			
使用上の 配慮等		○ 明治時代の札幌の地図やクラークの資料を掲載し、開拓の歴史などから札幌について考える課題を位置付けたり(全学年)、「アイヌ民族の歴史と文化について、アイヌ民族の首長やイオマンテの様子を描いた絵を掲載して、特徴を示したり(全学年)するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「ステップアップ」で一単位時間の学習内容を踏まえた発展的な学習活動(全学年)や、「歴史を考えよう」で学んだことを基に話し合い、考察する活動(全学年)を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。			

	○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり(全学年)、全ての生徒が学習しやすいよう、カラーユニバーサルデザインを取り入れたり(全学年)するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載する(全学年)など、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、明治時代の札幌の地図やクラークの資料を掲載し、開拓の歴史などから札幌について考える課題を位置付けたり、アイヌ神謡集と知里幸恵やアイヌの人たちの歴史と文化、アイヌ民族の首長やイオマンテの様子を描いた絵を掲載している。また、北方領土について、明治時代の学習における本文と特設ページにおいて、日本の領土の変遷が扱われている。 ○ ICTの活用については、二次元コードから、教科書掲載写真の拡大や動画の視聴など各種コンテンツにアクセスし、学習に使用することができる工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、第1章において、小学校で学習した「歴史を大きく変えた人物」について調査し、まとめる活動を設定する工夫がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、時代を通した視点、グローバルな視点でみたテーマやポイントを絞ってクローズアップしたテーマを取り上げる工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて、複数の資料の中から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう、世界の歴史の取り扱いを充実させるとともに、日本の歴史との関連や、現在の国際情勢との関連を記載する工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、レポートを作って発表するための解説ページを設け、まとめ方や発表の仕方の視点を示す工夫がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		116・日文	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・116-72	中学社会 歴史分野
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 歴史的分野の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した人物や文化財、ことさらに着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、年号、時代区分を示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、奈良や姫路の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、テーマや課題を設定した調査・考察から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、奈良時代の律令国家の成立に着目して、政治や文化の特色を考察したり、単元のまとめでは「日本という国はどのように生まれ、発達していったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、室町時代の商工業の発展に着目して、民衆の成長による社会の変化を考察したり、単元のまとめでは「たえず戦乱がくり返される時代となったのはなぜか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸幕府の政策や社会の変化に着目して、政治改革が成功しなかった理由を考察したり、単元のまとめでは「戦乱のない安定した時代は、どのように続いたか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、江戸時代の幕藩体制とのちがいに着目して、明治政府の政策の目的を考察したり、単元のまとめでは「近代化の特色は、どのような点にあらわれているか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、経済大国日本と外国の関係に着目して、世界に与えた影響を考察したり、単元のまとめでは「戦後日本は平和で民主的な社会、豊かな暮らしをどう追求したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、承久の乱の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、地図や年表などの複数の資料を基に、古代から中世への時代の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内容の 構成・ 排列、 分量等		○ 内容の構成・排列については、「私たちと歴史」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は14ページ、「近世までの日本とアジア」は136ページ、「近現代の日本と世界」は146ページ、その他は28ページであり、総ページ数は324ページで、前回より約4%減となっている。			
使用上の 配慮等		○ 北方領土に関する条約や国境の変化の地図、写真などの資料を掲載して、第二次世界大戦後の日本の取組を説明したり（全学年）、アイヌ文化について、儀式や神話、国立アイヌ民族博物館などの資料を掲載して、アイヌ文化の伝承について説明したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「確認」で一単位時間の学習の理解を確認する活動（全学年）や、「学び合い」で話し合いなどの対話的な活動（全学年）を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。			

	○ 教科書の構成と学び方について説明するページを設けたり（全学年），全ての生徒が学習しやすいよう，ユニバーサルデザインフォントを使用したり（全学年）するとともに，１人１台端末を活用した学習活動として，二次元コードを掲載する（全学年）など，使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については，中世の学習における和人とアイヌ民族の交易や，江戸時代の学習における蝦夷地でのアイヌとの交易の様子，旭川にゆかりのある知里幸恵やアイヌ神謡集が扱われている。また，北方領土について，「歴史を掘り下げる」のコーナーで，北方領土問題のロシアとの歴史について扱われている。 ○ ICTの活用については，関連資料や動画などのデジタルコンテンツが設定されており，動画視聴により単元の見通しをもったり，ワークシートにより単元の振り返りを行ったりできるほか，小テストにより知識の定着を図ることができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については，「第１編」や各時代の「導入の年表」，ページ脚注の「連携コーナー」において，小学校で学んだ人物，文化，遺産などを再確認できる構成にする工夫がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう，章末の各時代の「まとめ」では習得した知識を関連させて，時代の特色を捉えさせることをねらいとした「アクティビティ」や，歴史的な見方・考え方を働かせる問いを「深めようコーナー」などを設定する工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて，複数の資料の中から適切な資料を選択したり，資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう，「見方・考え方」の欄を設け，学習課題の解決に向けての手がかりとなる例を示すほか，資料を用いた活動を示す「スキルアップ」のコーナーを設け，系図の読み取り方等必要な情報の読み取りなどの技能が高められるようにする工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し，概念などに関する知識として獲得することができるよう，ページの側注欄には「確認コーナー」を設定し，基礎的・基本的な知識の確実な定着を図ったり，章末の各時代の「まとめとふり振り返り」では，年表と地図で振り返り，各事象の年代・場所が確認できるようにするなどの工夫がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		225・自由社	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・225-72	新しい歴史教科書
取 扱 内 容	学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等	○ 歴史的分野の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校の歴史学習で学んだ人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や元号、世紀、時代区分などの資料から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、奈良と京都の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査や考察したことから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、大和朝廷による国内の統一に着目して、古墳の広まりから勢力の広がりを考察したり、単元のまとめでは「古代とはどんな時代だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、鎌倉時代の武士の政権の特徴に着目して、将軍と武士の主従関係を考察したり、単元のまとめでは「中世とはどんな時代だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸幕府の諸政策の目的に着目して、江戸時代の社会の安定を考察したり、単元のまとめでは「近世とはどんな時代だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、近代産業の発展と国民生活の変化に着目して、日本の産業革命の進行を考察したり、単元のまとめでは「近代前半（幕末・明治）とはどんな時代だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、高度経済成長と日本の発展に着目して、社会や外交への影響を考察したり、単元のまとめでは「現代とはどんな時代だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、二つの世界大戦と日本の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、二つの世界大戦の共通点と違いについて話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内 容 の 構 成 ・ 排 列 、 分 量 等		○ 内容の構成・排列については、「歴史のとらえ方」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特徴や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は12ページ、「近世までの日本とアジア」は130ページ、「近現代の日本と世界」は139ページ、その他は31ページであり、総ページ数は312ページとなっている。なお、今回は調査研究が行われていない。			
使 用 上 の 配 慮 等		○ 江戸幕府から蝦夷地（北海道）の測量を命じられた伊能忠敬の地図と現在の日本地図を比較して紹介したり（全学年）、アイヌの人々の文化や生活について、イオマンテなどの祭りや音楽、サケ、コンブ、毛皮などの交易の様子を説明したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 本文の記述を深め、歴史の見方のヒントを与える読み物（全学年）や、「チャレンジ」で単元を学習したあと挑戦したいワンポイントの課題を掲載する（全学年）など、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。			

	○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり（全学年）、全ての生徒が学習しやすいよう、レイアウトの統一に配慮したり（全学年）するとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、ICTの活用例を掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
指導上の配慮等	○ 地域素材については、室町時代の学習におけるアイヌ民族の交易活動や江戸時代の学習におけるアイヌ民族と松前藩の交易が扱われている。また、北方領土について、国境の様子や北方4島に対する日本の考え方が扱われている。 ○ ICTの活用については、「調べ学習のページ 日本人の名字の由来を訪ねてみた」において、調査の方法の1つにインターネットの活用を紹介するなどの工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、序章で小学校で学習した歴史上の人物などを振り返る活動を設定したり、各章の扉に「登場人物紹介コーナー」を設け、小学校で学習した人物を中心に構成した年表を配置したりするなどの工夫がなされている。
本市生徒の学習の状況等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末に時代や人物の特徴などについて複数の視点で比較する「時代比較の問題」や「人物比較の問題」を設定するとともに、歴史上の人物の考え方の相違点等について話し合う「意見交換会」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。 ○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、章末の「調べ学習のページ」において、写真や絵画などの資料から読み解くことができる歴史的事象を紹介するなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、章末に各章で学習した知識の整理を行う「復習問題のページ」を設定するとともに、対話を通して時代を大観させ、まとめ図を通して構造化する「対話とまとめ図のページ」を設定するなどの工夫がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		227・育鵬社	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・227-72	新しい日本の歴史
取扱内容 学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等		○ 歴史的分野の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物や文化財に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、元号、時代区分を示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、大阪や横浜の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、実際の調べ学習を例にした調査の流れから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、飛鳥時代の律令国家の確立に至る過程に着目して、聖徳太子が目指した政治を考察したり、単元のまとめでは「資料を見て古代の日本の変化について考えよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、鎌倉時代の武家政権の成立に着目して、古代の律令政治との違いを考察したり、単元のまとめでは「人々の暮らしや社会がどのようなようになったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸幕府の成立と大名統制に着目して、江戸幕府による支配が続いたことを考察したり、単元のまとめでは「江戸時代の社会はどのような社会になっていったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、大日本帝国憲法の制定に着目して、憲法の作られ方や政治のしくみを考察したり、単元のまとめでは「近代化に向けて歩んだ日本にとってどんな時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、第二次世界大戦後の諸改革に着目して、憲法が大きく変化した点を考察したり、単元のまとめでは「戦後の日本と世界の歩みからどんな時代だったといえるか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第一次世界大戦後の国際情勢の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、地図資料を基に世界の植民地やアジアの民族運動について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内容の 構成・ 排列、 分量等		○ 内容の構成・排列については、「序章」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は22ページ、「近世までの日本とアジア」は122ページ、「近現代の日本と世界」は134ページ、その他は30ページであり、総ページ数は308ページで、前回より約4%減となっている。			
使用上の 配慮等		○ 明治時代の開拓使による北海道の開拓について、屯田兵による開拓の様子をなど紹介したり（全学年）、「蝦夷地との交易」の中で、儀式的の様子を描く資料などを掲載して、アイヌ民族による交易の様子や和人との関わりを説明したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「確認と探究」で学習内容を振り返る活動（全学年）や、「TRY!」でグループで話し合ったり調べたりして取り組む対話的な活動（全学年）を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書の構成について説明するページを設けたり（全学年）、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したり（全学年）するとともに			

	に、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、中世の学習におけるアイヌの人々の交易や、江戸時代の外交政策に関する学習における蝦夷地との交易の様子が扱われている。また、北方領土について、終戦後の学習の本文や特設ページ「歴史ズームイン」において歴史的経緯が扱われている。 ○ ICTの活用については、目次と各章の冒頭にある二次元コードで、学習内容に関連する動画を閲覧したり、情報を収集したりすることができるよう工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、各章の冒頭に、その章で学習する時代に起こった出来事や活躍した人物、文化や生活などのイラストを年代順に掲載する配慮がなされている。
本市生徒の 学習の状況 等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末の「学習のまとめ」において、主な歴史上の出来事や人々の生活、文化の様子などを資料の読み取りを通して整理させる活動を設定するほか、「歴史ズームイン」において、本文の内容について多角的な視点から解説したり、発表したりするなどの工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて、複数の資料の中から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう、平安時代と鎌倉時代の建築や彫刻を比較するよう促すなど、一単位時間の導入資料について考えるきっかけとなる問いを吹き出しで表すなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各章末に「学習のまとめ」を位置付け、年表に人物や歴史上の出来事などを記入させたり、時代の特徴を説明させたりするとともに、見開きごとに「確認」と「探究」を設け、一単位時間で学習した内容を振り返らせたりするなどの工夫がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		229・学び舎	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・229-72	ともに学ぶ人間の歴史
取 扱 内 容	学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等	○ 歴史的分野の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した人物、出来事や文化に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や元号、世紀、時代区分などの資料から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、東京の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査や発表の方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、弥生時代の稲作の広まりに着目して、くらしや社会の変化を考察したり、単元のまとめでは「人びとの生活や社会のようす、制度や文化はどう変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、室町時代の諸産業の発達に着目して、都市や農村の自治的な仕組みの成立を考察したり、単元のまとめでは「中世はどのような人びとが力をもった時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸幕府の政治改革や社会の変化に着目して、百姓一揆が起こった背景を考察したり、単元のまとめでは「中世と比較し近世・江戸時代はどのような時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、立憲国家の成立と議会政治の始まりに着目して、自由民権運動の広まりや変化を考察したり、単元のまとめでは「近代はどのような特色をもった時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、サンフランシスコ講和会議の参加国に着目して、第二次世界大戦後の日本の国交の変化を考察したり、単元のまとめでは「時代の変化を絵に表してみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、中世の武士の政治への進出と展開の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、鎌倉幕府の政治の特徴や武士の願いについて話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内 容 の 構 成 ・ 排 列 、 分 量 等		○ 内容の構成・排列については、「歴史と出会う」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は8ページ、「近世までの日本とアジア」は124ページ、「近現代の日本と世界」は146ページ、その他は30ページであり、総ページ数は308ページで、前回とほぼ同様となっている。			
使 用 上 の 配 慮 等		○ 領土画定に関して、開拓使設置や北海道への移住奨励に関する資料を掲載して、明治時代の北海道の開拓の進展について説明したり（全学年）、江戸時代にアイヌの人々が採集した昆布の行方を課題として提示し、近隣諸国との交易の拡大について紹介したり（全学年）するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「フォーカス」で歴史の舞台に焦点を当てて学習を深める活動（全学年）や、「歴史を体験する」で学習内容に関わる体験活動（全学年）を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり（全学年）、全ての生徒が学習しやすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮したり（全学年）するとともに、1			

	人1台端末を活用した学習活動として、ICTの活用例を掲載する（全学年）など、使用上の便宜が図られている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については、江戸時代の交易に関する学習におけるアイヌの人々の暮らしの様子、明治時代の領土画定の学習における東京に出て日本語を学んだアイヌの人々が扱われている。また、北方領土について、日本の独立の学習において、ロシアと交渉を行っていることについて扱われている。 ○ ICTの活用については、特設ページ「歴史を体験する」において、インターネットで「洛中洛外図屏風」を見る学習活動を設定するとともに、当該資料のデータを公開している国立歴史民俗博物館のデータベースへの接続の仕方を掲載するなどの工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については、巻頭の「歴史への案内」において、歴史上の人物や出来事、文化遺産を視点として小学校の学習を振り返る活動を位置付ける工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況 等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、「部の学習のまとめ」において、各時代の社会の様子や文化の特色などについて前の時代との共通点や相違点をまとめたり、側注において、歴史に関わる事象について複数の説があることを解説したりするなどの工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて、複数の資料の中から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう、巻頭の「歴史への案内」において、寺子屋と明治の学校の比較など、出来事や文化を調べる際のまとめ方を例示するなどの工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、章末の「章をふりかえる」や「部の学習のまとめ」において、各時代の主な出来事を年表や地図、表にまとめたり、時代の特色について考えたことを説明したりする問題を掲載するなどの工夫がなされている。
その他	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		236・令書	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・236-73	国史教科書 第7版
取 扱 内 容	学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	○ 歴史的分野の目標を達成することができるよう、次のような学習活動が取り上げられている。 ・「私たちと歴史」において、小学校で学習した人物と文化に着目して、時代区分の関わりについて考察したり、西暦や元号、世紀、時代区分などの説明から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動 ・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、堺の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査や発表の方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動 ・「古代までの日本」において、古墳時代の日本列島における国家形成に着目して、同じ形の前方後円墳が点在する意味を考察したり、単元のまとめでは「古代の時代ごとの特色をとらえよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「中世の日本」において、南北朝の争乱と室町幕府に着目して、足利尊氏が建武政権から離反した理由を考察したり、単元のまとめでは「鎌倉時代に登場した新しい仏教を分類しよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近世の日本」において、江戸幕府の支配の仕組みに着目して、江戸幕府が200年以上も続いた理由を考察したり、単元のまとめでは「世界の植民地競争に巻き込まれた激動の時代を調べよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「近代の日本と世界」において、日清・日露戦争に着目して、諸国に与えた影響を考察したり、単元のまとめでは「明治維新による近代化と弊害について調べ考えよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ・「現代の日本と世界」において、日本の経済の発展に着目して、戦後の復興を果たすための国民の努力を考察したり、単元のまとめでは「歴史について議論し協力して結論を導こう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、明治維新の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、明治維新による近代化のさまざまな側面について話し合い、考えを広げたり深めたりするなどの学習活動が取り上げられている。			
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分 量 等		○ 内容の構成・排列については、「国史を学ぶにあたって」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。 ○ 内容の分量については、「歴史との対話」は13ページ、「近世までの日本とアジア」は252ページ、「近現代の日本と世界」は191ページ、その他は64ページであり、総ページ数は520ページとなっている。なお、今回は調査研究が行われていない。			
使 用 上 の 配 慮 等		○ 江戸時代における欧米諸国の接近の学習において、ロシアのラクスマンによる根室への来航について説明したり(全学年)、「鎖国下の対外窓口」の中で、儀式の様子を伝える資料を掲載して、アイヌの人々と和人との交易について紹介したり(全学年)するなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「歴史カードを作ってみよう」で小学校で学んだ人物について調べる活動(全学年)や、「グループで歴史を調べよう」でテーマを決めて調べる活動(全学年)を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり(全学年)、全ての生徒が学習しやすいよう、カラー印刷の「巻末口絵」や「日本美術図鑑」を掲載したり(全学年)すると			

	ともに，１人１台端末を活用した学習活動として，二次元コードを掲載する(全学年)など，使用上の便宜が図られている。
指導上の 配慮等	○ 地域素材については，近世の学習においてアイヌと松前藩の交易の様子が扱われている。また，北方領土について，領土画定の背景などについて扱われている。 ○ ICTの活用については，二次元コードを読み取ることにより，漫画「承久の乱」を読むことができる工夫がなされている。 ○ 小中連携による指導については，「序 国史を学ぶにあたって」の中で，小学校で学んだ人物と文化を振り返り，歴史カードを作ってみようという課題を設定する工夫がなされている。
本市生徒の 学習の状況 等	○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう，学習の最後に読み物としてコラムを掲載し，生徒が様々な視点で歴史を捉えようとする工夫がなされている。 ○ 課題の解決に向けて，複数の資料の中から適切な資料を選択したり，資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう，写真や図などを厳選し，本文の記述内容と関連付けて掲載する工夫がなされている。 ○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し，概念などに関する知識として獲得することができるよう，「考えよう」や「まとめのページ」が掲載されており，深い学びに導く工夫がなされている。
その他	